

介護テクノロジー社会実装のためのエビデンス構築事業

介護事業者向けセミナー

介護テクノロジーの 導入・定着に求められる視点

株式会社ビーブリッド
竹下 康平

講師 自己紹介

ケアテック活用推進一筋16年
事業所訪問数1000超



株式会社ビーブリード
代表取締役CEO

竹下康平



著書

ICT導入から始める介護施設のDX入門ガイド（第一法規）

監修

ケアマネジャーのためのICT活用BOOK（第一法規）

共著

これならわかる〈スッキリ図解〉介護の外国人材活用
（翔泳社）

青森県生まれ 元プログラマ、システムエンジニア

介護・福祉業界でのICT活用啓発・ケアテック普及推進に長
年取り組む

- 一般社団法人日本ケアテック協会 事務局長
- 一般社団法人介護離職防止対策促進機構 理事
- 厚労省 CARISO専門家サポーター
- 内閣府 規制改革推進会議 有識者 (R4.10, R5.1, R5.3)
- 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
LIFE推進委員会 座長／副委員長

その他委員会等実績 ※2017年以降一部抜粋

- 学校法人 敬心学園 日本福祉教育専門学校 介護IT基礎講座 講師
- 学校法人 滋慶学園 東京福祉専門学校 IT特別授業 講師
- 学校法人 敬心学園 [文科省委託事業]
専修学校における先端技術利活用実証研究 (VR・AR活用) 委員長
- 社会福祉法人善光会 [厚労省委託事業]
介護ロボットの活用に向けた人材育成 委員
- 学校法人 敬心学園 [文科省委託事業]
介護業務におけるマネジメント研修開発 委員
- 全国老人福祉施設協議会 [厚労省老健事業]
特別養護老人ホームにおけるケア記録に関する調査研究事業 委員
- 北九州市立大学 [文科省委託事業] ケアIT講義 (VOD) 講師
- 千葉大学[文科省委託事業]
キャリアアップを見据えた介護・医療・福祉DX+人材育成プログラ
ム 委員

株式会社ビーブリッドとは

介護・福祉の新しい世界をICTの力で支えていく

「介護とITを同時に考える会社」をコンセプトに創業
介護と福祉の現場の未来をICTの力で支える企業です



ビーブリッドの取り組み

要
チェック!
✓

経営者・管理者だけでなく、しっかり現場職員もフォロー

経営者・管理者



- DX戦略（企画）立案
- DX伴走支援[生産性向上委員会]
- 中期ICT導入計画立案
- 製品選定
- 補助金獲得支援
- ICT関連コストダウン支援

現場職員



- ICT総合サポートデスク
- 情報システム部門代行
- 情報資産管理
- ICTリテラシー、セキュリティ研修

その他サービス



- クリエイティブ（福祉特化WEB制作）
- ネットワーク環境整備（Wi-Fi整備等）

ほむさぽ3分動画



ITの事ならなんでも聞いてOK IT担当者のサブスクサービス『ほむさぼ』

①経営者・管理者の悩み



生産性向上・DXの企画実行の
専任者不足、経験不足で不安。

②介護現場（職員）の悩み



IT活用への不安、相談相手の不在、
プレッシャー、時間不足。



ほむさぼが解決！

介護・福祉に精通したコンサルタントと、
介護テクノロジー専門のサポートデスクが、
現場の「困った」を伴走支援で解決。

導入効果（生産性向上・DX推進）



IT専任者がいなくても安心して
取り組みが進められる。

信頼の証・実績



創業15年以上、1000事業所超の実績。
介護福祉士、社会福祉士、ケアマネ、
PT等の専門職と、エンジニアの混成
チームによる万全の支援。

生産年齢人口減
利用者急増

求められるは
少数精鋭型介護

生産性向上、DX
無しに実現は難しい

国が目指すは2040年に33%効率化※




※省力化投資促進プラン一介護（令和7年6月13日厚生労働省）



目指すイメージと差がつく収益



特養 100床 職員70名のケース：月額増益効果試算

【収入】月額 増益効果 (+)

	生産性向上推進体制加算I	10万円
	処遇改善加算	133万円
	15%職員減による効果(10名減)	300万円

収入合計：443万円

【支出】IT投資・職員再配分 (-)

	IT投資支出	100万円
	職員再配分支出(60名分)	120万円

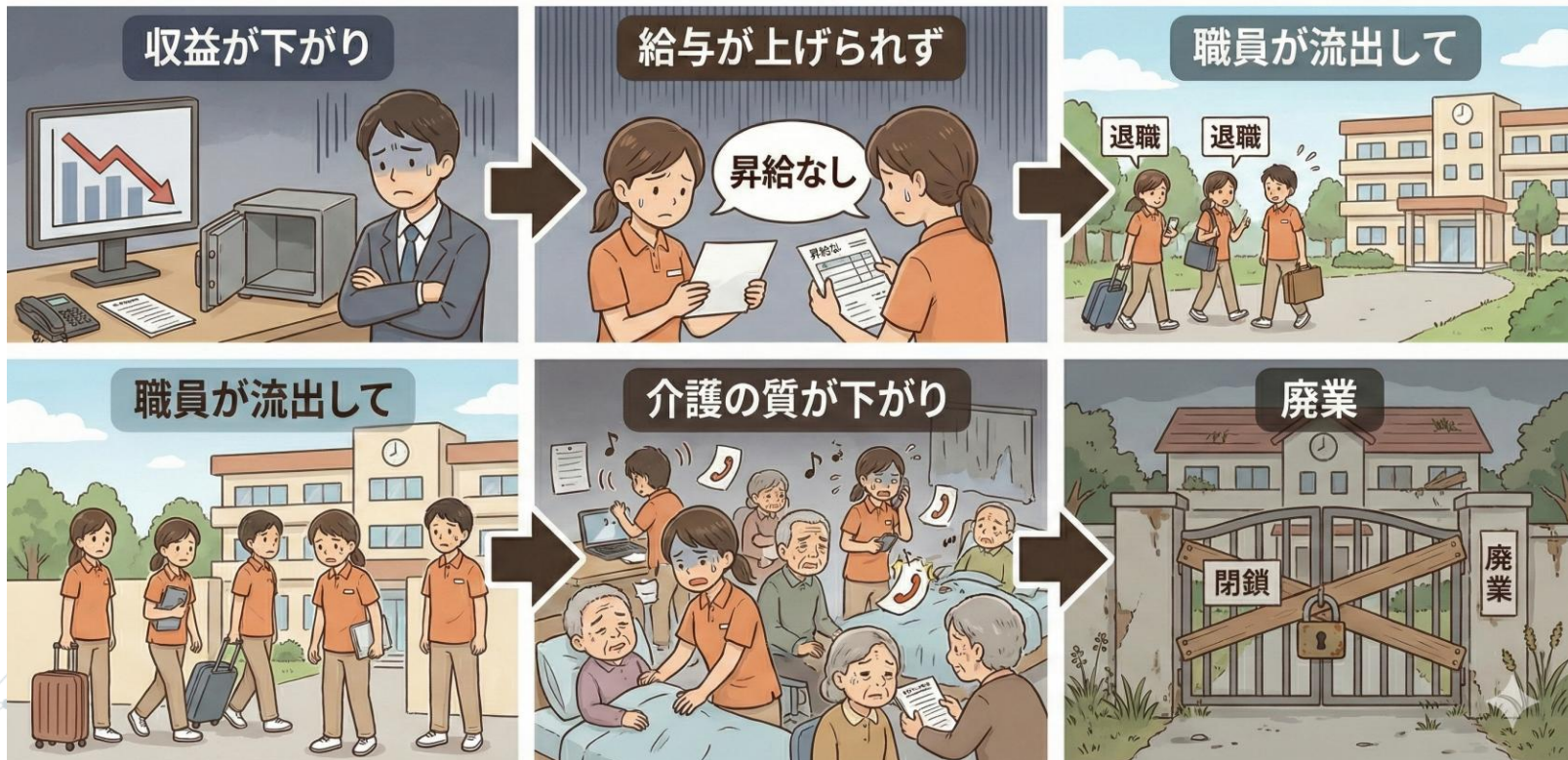
支出合計：220万円

【結果】差し引き月額増益

$$\begin{array}{r} \text{収入} \\ 443\text{万円} \end{array} - \begin{array}{r} \text{支出} \\ 220\text{万円} \end{array} = \begin{array}{c} \img alt="Upward arrow and coins icon" data-bbox="525 797 574 895"/> +223\text{万円} \end{array}$$

職員月給2万円UP

生産性向上の取り組みをしないと…



生産性向上の取り組みが上手くいくと

生産性向上の取り組みを積極的に進めると…



生産性向上を進める現場が 実践している3つのポイント

本日解説

人：体制と教育



本日解説

物：設備投資 (ソフト、
ハード、ネットワーク)



ルール：分業、オペレ
ーションルール再構築



具体的に取り組むべき 6つのテーマ（本日は時間の都合上3つを解説）

テーマ	概要
体制構築	生産性向上、DXを推進する体制構築
設備投資	ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークへの投資
教育	デジタル活用、AI活用等の知識アップデート
分業化	専門領域への注力、専門外は介護助手や外注
オペレーションルール再構築	少数精鋭オペレーション、データ利活用（科学的介護）+AI
その他	サイバーセキュリティ対策 物理セキュリティ対策

体制構築

文化醸成を推進する情熱を持つメンバーがカギ



構成メンバーの要件



絶対条件：情熱！

将来の自法人や自事業所、利用者を実際に想っている人材



多職種が望ましく、複数名で組織



業務分析が重要となる為、業務内容を熟知した職員が望ましい



体制構築 人材・役割設計はDXの起点

説明

- ・ DXはシステム導入ではなく、業務と行動の変革
- ・ 業務は人が回している以上、人材と役割の設計が最初に必要
- ・ 役割が曖昧なまま進めると、導入後に必ず止まる

よくある失敗



ITが得意な職員に
全部寄せて属人化



兼務のまま責任だけ増え
燃え尽きる



導入後の運用ルール
が決まらず放置される



異動や退職で
取り組みが消える

体制構築 役割ごとの責任範囲と推進役の重要性

■最低限必要な4つの役割

役割名称	役割	責任範囲
意思決定者	方針・優先順位・投資判断	最終判断と評価軸の設定
管理者	各役割の横断	全体統括、優先順位調整、障害除去
推進役※	管理者と現場の橋渡し	計画、周知、現場調整、課題収集
実務担当	使う人、手順を作る人	試行、手順整備、フィードバック
外部支援	設定・教育・トラブル対応・改善提案	初期設定、教育、障害対応、機器管理

重要

- ・管理者が何もしなくていいDXは存在しない
- ・ただし、管理者が全部やるDXも失敗する
- ・管理者は設計と意思決定に集中する

■特に重要な推進役の適任条件

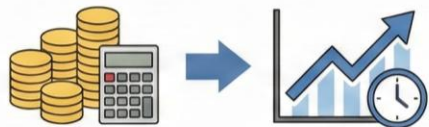
- ・現場の信頼がある
- ・説明や翻訳ができる
- ・完璧主義ではなく改善志向
- ・反対意見を受け止められる

避けたい選び方

- ・ITが得意だからだけで任命
- ・暇そうだから任命

設備投資 設備投資の基本思想（施設在宅共通）

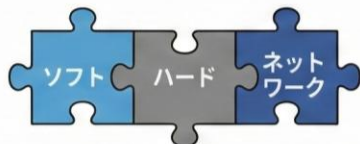
ポイント



設備投資はコストではなく、
生産性向上の前払い



人手不足を前提に
「人を増やさない経営」を支える手段

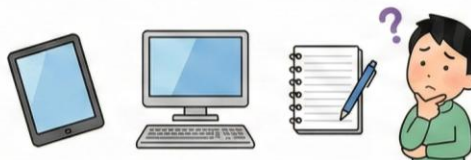


ソフト、ハード、ネットワークは
必ずセットで考える

⚠ よくある失敗



補助金ありきで選定する



単体導入で業務とつながっていない

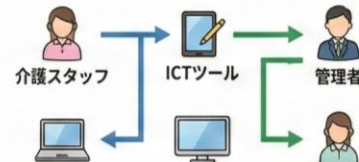


導入後の運用、保守、更新を考えていない

📋 管理者の判断軸



誰の、どの業務時間を減らす投資か



業務整理、役割設計とつながっているか



使い続けられる前提があるか

設備投資2 設備投資の考え方（施設系）

■施設系投資の特徴



・夜勤、少数精鋭型体制が前提



・安全性と省力化を同時に求められる



・建物、動線、固定設備の影響が大きい

■主な投資対象



・安全面：見守り機器、ナースコール



・情報共有：インカム、ビジネスチャット



・事務効率化：介護記録ソフト（+AI）



・防犯：電子錠、入退室管理、防犯カメラ

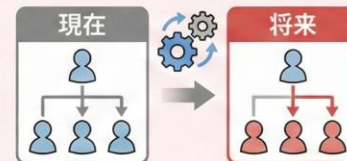


・ネットワーク：「超」安定したWiFi等

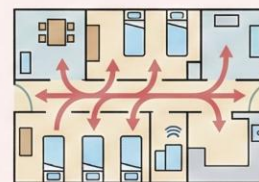
■管理者の判断軸



・事故等のリスクと職員負担（特に夜勤）が下がるか



・人員配置等に将来影響し業務効率化が可能か

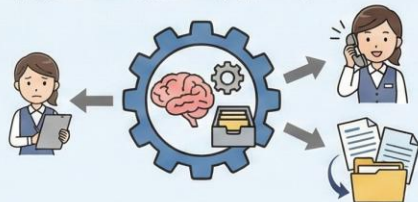


・現場の動線と合っているか

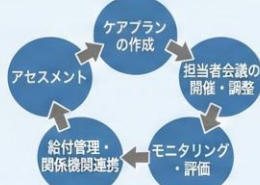
設備投資3 設備投資の考え方（在宅系[居宅]）

■居宅介護支援の業務特性

- ・情報整理と調整が価値の中心

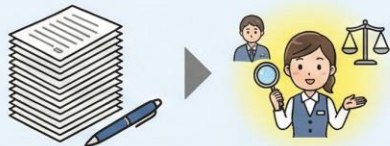


- ・以下5大業務※が連続する事務プロセス



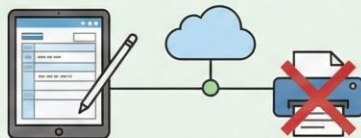
※アセスメント、ケアプランの作成、担当者会議の開催・調整、モニタリング・評価、給付管理・関係機関連携

- ・設備投資は書類作成等を極小化し「判断と調整に集中する」ために行う

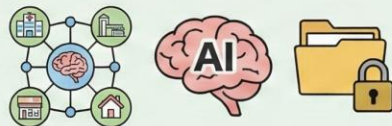


■主な投資対象

- ・介護記録ソフト、帳票電子化



- ・ケアプランデータ連携システム、文書管理 (+AI)



- ・PC、デュアルディスプレイ等の事務環境

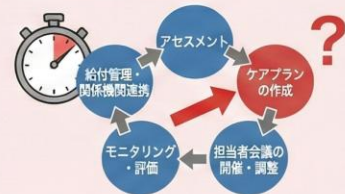


- ・音声認識、議事録AI

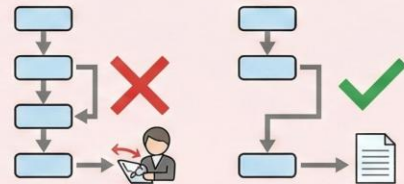


■管理者の判断軸

- ・5大業務のどこで時間が詰まっているか



- ・転記、確認、差し戻しが減るか



- ・ケアマネ1人あたりの事務負担軽減につながるか（将来によりプラン件数を増やせるようになるか？）



設備投資4 設備投資の考え方（在宅系[訪問]）

■訪問介護の構造的特徴



移動時間が多い



シフト調整と情報共有が複雑



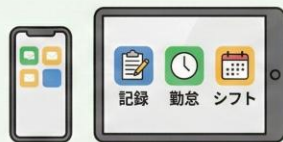
サ責が調整業務を抱えがち

記録を取りまとめるのが大変



情報が事業所外に分散（情報漏洩リスク高）

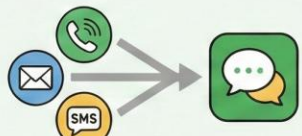
■主な投資対象



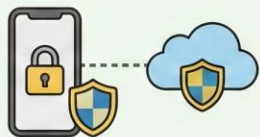
・スマートフォン、タブレット



・訪問記録、勤怠、シフト管理



・ビジネスチャット等連絡手段の一本化



・モバイル等のセキュリティ強化

■管理者の判断軸



・記録や報告が月末に偏らず完結するか



・サ責の負担が減るか（業務平準化）



・職員ごとの連絡手段、記録方法を統一できるか



・情報漏洩リスクを減らせるか

■ 教育の位置づけ

- ・ 教育はスキル習得ではなく、不安の解消
- ・ 全職員をデジタル人材やAI活用に必要はない
- ・ 設備投資とセットで初めて意味を持つ
- ・ 将来のAI活用に耐えられる土台作り

■ 教育の対象と深さ

- ・ 管理者：全体像と判断軸を理解する
- ・ 推進役：使い方と現場展開を担う
- ・ 現場職員：最低限「使える」「拒否しない」状態を作る

■ 教育内容の考え方

- ・ 操作方法より、業務のどこが楽になるか
- ・ ICTやAIは「禁止」ではなく「前提」として扱う
- ・ AIは考える代わりではなく、下準備を助けるだけの存在
- ・ 一度きりではなく、短時間・反復(定期)型

■ 管理者の判断軸

- ・ 教育が一過性イベントで終わっていないか
- ・ AI活用に対する不安や誤解を放置していないか
- ・ 「使えない人」を放置していないか

オペレーションルール再構築（生産性向上目的）

■ 位置づけ

- ・ 人材不足を前提とした業務設計
- ・ 設備投資、教育、分業化の成果を定着させる工程
- ・ 「人が減っても回る」オペレーションを作る
- ・ 属人的な頑張りから、構造で回る組織への転換

■ 見直すべきルールのポイント

- ・ 記録、報告、確認の流れ
- ・ 連絡手段と判断ルートの統一
- ・ 「誰がやるか」ではなく「どう流れるか」
- ・ 引き継ぎや異動が発生しても崩れないか

■ 少数精鋭型オペレーションの考え方

- ・ 業務は人に依存させない
- ・ 例外を増やさず、標準化する
- ・ 暗黙知を明文化し、誰でも回せる形にする
- ・ 特定の人がいなくても成立する前提で設計する

■ 管理者の判断軸

- ・ このルールは守れる前提になっているか
- ・ 属人化や例外対応が残っていないか
- ・ 人員が減っても業務が破綻しないか
- ・ 管理者自身が介入しなくても回るか

■ 位置づけ

- ・生産性向上と両立する「質」の担保
- ・記録を残す業務から、知見を生む業務へ
- ・科学的介護とAI活用を前提とした業務設計
- ・専門職の判断精度を組織として高める仕組み

■ AIを組み合わせたオペレーションの姿

- ・AIがデータを整理／要約／可視化する
- ・専門職は短時間で高精度な考察／検証に集中
- ・AIは判断の代替ではなく、示唆を与える助手
- ・人の思考を深めるための下準備を担わせる

■ データ利活用の考え方

- ・利用者ごとの時系列データを蓄積／活用
- ・LIFE等により得られる他事業所データを参照軸にする
- ・変化、傾向、差異を捉えるための記録設計
- ・個人の経験ではなく、再現可能な知見にする

■ 管理者の判断軸

- ・データが集めるだけで終わっていないか
- ・専門職の判断の質とスピードが上がっているか
- ・AI活用が属人化せず、組織の力になっているか
- ・AIに依存しすぎず、責任が人に残っているか

まとめ

- ・介護DXや生産性向上は、単発施策ではなく連続した経営判断
- ・生産性向上は、介護の質を下げるためのものではない
- ・データとAIは、専門職の力を弱めるものではなく強めるもの
- ・管理者の役割は「現場を頑張らせること」ではなく「仕組みを設計すること」

体制構築	誰が決め、誰が進め、誰が使うのかを明確にする
設備投資	業種特性に合わせて、時間と負担を減らす投資を行う
教育	スキル習得ではなく、不安を解消し使える状態を作る
分業化	専門職を専門業務に集中させる構造を作る（外注等徹底活用）
オペレーションルール再構築	少数精鋭で回る仕組みと、科学的介護・AIによる判断精度向上を両立
セキュリティ対策	情報と命を守る前提条件を、経営として設計する

■ 管理者に求められる視点

- ・現場努力に依存していないか
- ・人が減る未来を前提に考えているか
- ・生産性と介護の質を対立させていないか
- ・説明責任を果たせる設計になっているか

【介護・福祉事業者に耳寄りの情報発信中】

生産性向上やセキュリティ対策等のセミナーのご案内等メルマガで発信中

メルマガ登録フォーム



<https://www.bibrid.co.jp/mail-magazine>

ON-LINE SEMINAR

令和8年法改正前年

いま介護事業者に求められる
生産性向上活動と

データ

◆参加無料

2026
1.21

介護・福祉事業所における
セキュリティ対策と
Wi-Fi構築セミナー

講師 株式会社ビーブリッド 後藤 卓
株式会社フルノシステムズ 鈴木 徳之

2026年1月21日開催

令和7年度
介護テクノロジー導入補助金
求められる業務改善支援とは？

業務改善が求められる令和7年度介護テクノロジー導入補助金。現在発表されている都道府県の情報から、重要なポイントを読み解きます！

大人気
セミナーの一例

令和8年度に向けて

介護現場の“生産性向上”を
机上の空論で終わらせない方法

- 経営者目線・現場目線の業務改善とICT活用のリアル -

ICT活用已成功している現場が実践する

3つの秘訣とは？

R9年度改正 を見据えて
取り組むべきポイント

2026
2.26 13:20~14:20

CareTEX 医食26
東京ビッグサイト 西展京棟

株式会社ビーブリッド 後藤 卓
株式会社フルノシステムズ 鈴木 徳之

竹下 康平

電話：050-5482-3721（平日 9:00~17:30） / メール：bibrid-seminar@bibrid.co.jp